

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信
主な取組	沖縄・奄美連携交流促進事業			
対応する主な課題	①文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
<p>沖縄と奄美群島は、地理・自然・歴史・文化等のつながりが深く、県域を越えて各分野で交流が行われている。沖縄と奄美群島の交流を促進し、また、世界自然遺産登録に向けた両地域間の移動しやすい環境づくりをするため、沖縄県と鹿児島県が連携し、折半により航空運賃及び航路運賃を支援し低減する。</p>		低減した運賃の利用者数 ・航空路 22,000人 ・航路 70,000人				低減した運賃の利用者数 ・航空路 24,900人 ・航路 73,700人
		航空路運賃及び船賃を支援し低減する				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	企画部地域・離島課		【098-866-2370】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄・奄美連携交流促進事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 沖縄～奄美群島の航空運賃及び航路運賃を支援し低減した（令和2年4月～令和3年3月）。	
							78,359	一括交付金（ソフト）	OR3年度： 沖縄～奄美群島の航空運賃及び航路運賃を支援し低減する（令和3年4月～令和4年3月）。	
一括交付金（ソフト）	負担	69,011	82,953	81,765	73,437	45,135				

様式1(主な取組)

活動指標名	低減した路線における利用者数 (低減した運賃の利用者数)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
実績値	航空路： 16,551人 航路： 50,234人	航空路： 22,637人 航路： 67,056人	航空路： 20,496人 航路： 55,362人	航空路： 21,396人 航路： 52,177人	航空路： 10,259人 航路： 17,050人	航空路： 30,500人 航路： 70,400人	40.0%	45,135	大幅遅れ	活動概要 沖繩～奄美群島の航空運賃及び航路運賃を 支援し低減し、支援した運賃の利用者数が、 航空路10,259人、航路17,050人となった。		
活動指標名					R2年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値												
活動指標名					R2年度			実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
実績値												
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和2年度の取組改善案								反映状況				
<p>・2020年度には、「奄美大島、徳之島、沖繩島北部及び西表島」の世界自然遺産 登録が再推薦される予定であり、登録後は国内外の関心を集め、両地域間の更なる 交流促進が予想される一方、本事業はR3年度で終了予定であることから、事業 継続について、事業効果を含めた実態調査の実施や鹿児島県との意見交換を行 う。</p>								<p>・R4年度以降の事業のあり方等を検討するための実態調査を行った。</p>				

様式1(主な取組)



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ H30の実態調査から、利用者は「仕事」、「観光」、「帰省」など交流目的の利用が多く、事業目的に沿った利用がなされている。

○外部環境の変化

・ 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録登録後は国内外の関心を集めることが予想される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ H30年度の実態調査では、本事業が終了した場合、旅行者の半数が旅行回数減の可能性を回答しており、一定の経済効果が発現されていることから、今後における事業継続を検討する必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・ 2021年度には、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録が審査される予定であり、登録後は国内外の関心を集め、両地域間の更なる交流促進が予想される一方、本事業はR3年度で終了予定であることから、R4年度以降の事業のあり方の検討、鹿児島県との意見交換を行う。